

園芸農業インターンシップ 秋田市

園芸農業の担い手を育てようと、秋田市は本年度「園芸農業インターンシップ」の参加者を高校生や大学生にも広げた。7月下旬には、高校生の参加者第1号となる金足農業高校2年生2人が、3日間の日程で同市仁井田の市園芸振興センターで農作業を体験した。本年度は9月までで、現在参加者を募集中。申し込み締め切りは8月10日。

参加したのは、同校造園緑地科の堀井龍蔵さんと、生物資源科の山本美れいさん。初日の7月28日は、センターのビニールハウスでトマトの収穫作業を行った。収穫後は汚れを拭き取り、出荷規格に合わせて選別。2、3個ずつ丁寧に包装していった。センター職員が「傷を付けず、へたが取れないようにトマトを収

対象広げ高校生も体験



収穫したトマトの汚れを拭き取る山本さん（左）と堀井さん

10日まで募集 「進路の選択肢に」

種する」などアドバイスし、2人は真剣な表情で取り組んでいた。

29日は近隣農家の下で野菜の袋詰めや値段シールの貼り付け、30日にはJA秋田なまはげの直売所「いぶきの里」（秋田市上北手）などの施設見

学や新規就農生との座談会を行った。

祖父母が農家だという堀井さんは、家族の手伝いができるようになったという考え応募したという。「トマトは緑色でも収穫し、販売時に赤くなるよう調整することに驚いた」と話した。山本さんは「農業に対しては『忙しくて大変』というイメージがあったが、実際に体験してみても、多くの便利な農機具で効率良く野菜を育てていることを学んだ」と話した。

市園芸振興センターは、2015年度から農業従事者の育成を目的に2年間の新規就農研修を行っている。これとは別に16年度から、市内での就農または新規就農研修

への参加を検討している市民を対象に、3日間の「チャレンジ研修」を実施中。昨年までに計50人が参加し、このうち12人は新規就農研修も受けているという。

若者にも農業に関心を持つてもらおうと、本年度、チャレンジ研修の名称を「インターンシップ」に変更。高校生や大学生も受け入れることにした。センターの鈴木善彦所長は「学生が進路を考

新規就農研修生との座談会



える際、農業を選択肢の一つにしてもえたら」と語った。

おおむね50歳以下で、市内で就農意欲のある人が対象。開催期間は受講者が希望する日程とする。



（岩見徳）

78

38・02

018・8

参加無料で、専用フォーム（QRコード左）から申し込む。問い合わせは市園芸振興センター ☎